
どすこいエンブオーの旅～バトル部外伝～

フォック・リザハート

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

どすこいエンブオーの旅／バトル部外伝

【EZコード】

25573Y

【作者名】

フォック・リザハート

【あらすじ】

ポケハン学園を卒業して自分の故郷へと帰ってきたエンブオーのエルブ、自分の目指す力士への道がかりとして彼はポケモンリーグ優勝を目指して旅にへと決意する。この物語はエルブとその仲間達が送る冒険物語であり、バトル部外伝、 спинオフである。

「ガネ弁などの言葉が出ますが作者自体はあまり詳しくないためグダグダになるのでご了承ください

技・術・テイルズシリーズ&オリジナル

プロローグ&第一 帰郷と再会（前書き）

新小説再びです！

今回はあるバトル部メンバーであるキャラが主人公の外伝です。

ではどうぞ！

プロローグ いよいよ 帰郷と再会

「ここはコガサカ地方と呼ばれる地方だ、ここは観光客が多くやつてくる地方だ、そしてここ「ガサカ地方最大の街ナースシティ」一匹のポケモンが歩いていく…すると

ドンッ！

「ってえ！ テメエ何處ぶつけやがる…」

一匹のズルズキンというポケモンが一匹のポケモンに文句を言いつ

「なんやぶつこひてきたのはそっちやないか

そのポケモンは自分はやつていないという表情をする。しかもこの地方でしか言わないコガネ弁を言いつている。

ズルズキン「なんだと…！」

ズルズキンは怒りをあらわにする

「こうとくけどなー俺にぶつこひてきて謝らなーひん奴は嫌いなんや…」

ズルズキン「黙れ！…食らえ…！」

ズルズキンは飛び蹴りを繰り出す

「しゃーないなー少し黙つておこか？」

一匹のポケモン…太い体型のポケモン…おおひぶたポケモンのエンブオーラが構える

…

ズルズキン「あ…が…」

ズルズキンはボロボロになっていた

エンブオーラ「もう俺にぶつかりくんや～」

エンブオーラは歩いて去った…

その証拠にズルズキンの体は手の平の跡がたくさんついていた。そう…まるで相撲取りのようなそんな感じだった

このエンブオーラは元バトル部のメンバーであったポケモン…この「ガサカ地方出身のエンブオーラ…猪エルブ」と

…

エルブ「ただいま～！」

エルブは自分の家へと帰ってきた、ほとんど樹を使った住宅だった…庭は少し広いが、すると玄関から

ドタタタタタタ…！と足音が響いてきた

『おかえり～エルブ兄ちゃん！～』

エルブ「つおわつー？」

エルブは4匹のポケモンに押し出され倒れてしまった、4匹はどれも同じ姿のポケモンだった、尻尾の先にちょこんとした赤くて丸いもの、耳は黒くて伸びていてかわいいポケモン、ひふたポケモンのポカブだ

「帰つてきあつたのかエルブー！」

「おかえり」

玄関の廊下から2匹のHンブオーが出てきた

エルブ「おかん…おかん…ただいまー！」

エルブは元気よく挨拶をした

……

エルブ「つまーーーいやー久しぶりにおかんの手料理はつまーで～」

エルブ母「おかわりじゃんじゃんあるで」

エルブ「おつー！」

エルブはかなりの量を食べ、これほどどの量を食つどこののはかなりの食欲だつた、バトル部でいたポケハン地方ではおいしい物はたくさんあり、自分で料理もした…でも

エルブ「おかんの味とは俺もまだまだやな」

と、肉を噛んで飲み込んだ

数分後：

エルブ「「」ちやうせん」

エルブ父「エルブ、お前もずいぶんと成長して帰ってきたな～しかも腹がさらに大きくなつてもうたな～」

みるとエルブの腹は見事に立派な太鼓腹になつていた。

エルブ「そんな俺はまだまだやで…でも俺は旅に出るんや…この地方でポケモン相撲…力士となるためにはポケモンリーグでそれを証明せなあかんし」

エルブはそう言つ、エルブがこの地方に戻つてきた理由はこの地方のポケモンリーグに出場するためだ、本当は別の地方ならいいのだが自分が生まってきたコガサカ地方の方が自分ではやりやすいということだ

エルブ父「そつかそつか～だがお前を父ちゃんはずつと見守つているぞ」

エルブ「ありがとうなおとん」

エルブは父に感謝する。

エルブ「それじゃあ腹も収まつたことやし、俺はちょっと出かけてくるわ～いつてくるで！」

エルブは外へと出た

……

エルブ「懐かしいな～」

エルブはなじみある公園に来ていた。

エルブ「いじでかなりつっぱりしたな～」

エルブはとある大木に触る、大木の幹には手の跡が残っていた。エルブの汗と涙の結晶がこの大木に染み渡つているのだから

エルブ「さて、次はチャオの家にいこか」

エルブは行こうとしたその時

「先輩！！」

エルブは咄嗟に振り向いた、そこには一匹のポケモンがいた

ポカブと同じ伸びている黒い耳、尻尾はバネのようになつていて尻尾の先は黒いもの、目つきは少し鋭いポケモン、ポカブの進化系のチャオブーだ

エルブ「チャオ！？」

それはエルブの後輩であるチャオだった

チャオ「久しぶりです先輩！」

チャオはエルブの元へ

エルブ「久しぶりやな！元気やつたか！」

チャオ「はい！おかげさまで、エルブ先輩も見ないうちに遅しくなりましたね！」

チャオは尊敬の目をしていた

エルブ「ああ、俺もとあるリザードンに鍛えられたんや、チャオも元気やつたな～」

お互に再会を喜んでいる…しかし再会を喜んでいるのもつかの間

「いたぞ！」

そこから一匹のポケモンが現れた、それは先ほどエルブが倒したズルズキンだった

エルブ「なんや、またお前かいな」

ズルズキン「あん時はよくもやりやがったな！だがテメエを潰すために他にも仲間を連れてきたんだよ！出て来い！」

ズルズキンが合図をしたと同時に公園の草陰から数匹のポケモンが現れた…その数100匹

ズルズキン「さあーこれでもう逃げられないぜーーー！」

もはや状況ではエルブには不利だつた

チャオ「先輩！」

エルブ「慌てるやない…大勢で来るとは卑怯なやつちやなーそれほど根性なしちゅーこつたやないか！」

エルブは叫ぶ、しかし

ズルズキン「ハハハハー！何度でも言えー！テメエにはたっぷりと仕返ししてやるーーー！」

エルブ「しゃーないなー俺も本気でやろつか…」

エルブはしごを踏んだ

ズルズキン「ギャハハハハー！なんだダッセエーー！力士のつもりかーー！」

ズルズキンは笑うが

エルブ「勝手にそう言つたれ…だが俺は負ける気せえへん…チャオ、俺の懐から離れんよつこしうや」

チャオ「先輩…」

チャオはそんなエルブを見る、エルブのこの表情…それは余程自信

のあるのをチャオは感じていた。チャオはエルブのそばへ

ズルズキン「だが勝つのは俺達だ！！かかる！！」

一斉にポケモン達はエルブとチャオに襲い掛かってくる

果たして！

プロローグ&ついで 帰郷と再会（後書き）

エルブ「なんか俺が主役でええんかいな？」

うん、目立つよひこするよ

エルブ「なんか妙に不安やな（汗）」

次回はエルブが本気を見せます

エルブ「次回も見たつてな～」

じすこじーー 濱花のハンブオーの復帰と旅立ち（前書き）

エルブ「妙に長いねんな〜（汗）」

第1話だよ、今回はエルブのバトル部で鍛えた実力です。

エルブ「ではどうぞこじーーいてもうたれやー！」

どすこいーー 浪花のエンドブローの復帰と旅立ち

ズルズキン「ば…ばかな！？」

それは圧倒的だった、エルブへと攻撃をしたズルズキンの仲間達、しかし

チヤオ「すゞい…」

それは信じられない光景だった…エルブの周りにはボロボロで倒れたポケモン達が群がっていた

エルブ「なんや？もうこれで終わりかいな？」

コキコキと肩を鳴らすエルブ、圧倒的不利な状況をたつた1匹のエンドブローによつてだ、残るはズルズキンのみ

ズルズキン「このままでは…」

その時

「おーおー、テメエ等こんな豚野郎に何苦戦してんだよ

公園の入口から一匹のポケモンが出てきた

鋭い爪に白い体毛、お腹部分にはMと書かれた赤い体毛模様が描かれていて、尻尾もふさふさとしている。ねこイタチポケモンのザングースだ

ズルズキン「あ、兄貴！」

ズルズキンは涙目でザングースを見る

ザングース「おい、そこの豚野郎…まさかこいつらをやるなんてな…俺も…混ぜるよ…！」

ザングースはいきなり襲い掛かる、しかし

エルブ「アカンで、そう慌ててはな！」

エルブはザングースの腕を掴んでいた。その場でエルブは放した

ザングース「やるじゃねえか…だがこれならどうだ…！」ブレイククロー！

ザングースの爪が光る、ブレイククローは半分の確率で防御を下げる技だ、至近距離ではエルブは防げない

エルブ「くっ！」

エルブはブレイククローを受けた

ザングース「まだまだ…！」

再びブレイククローでエルブをさらに押し出していく

ズルズキン「いいぞ！兄貴…！」

倒れているズルズキンの仲間など、みんなザングースを応援している

ザングース「どうした！」のままじゃやられちまうぜ！…」

ザングースはさらに切り裂いていく、だが

エルブ「俺がそう簡単にやられないで！カウンター！…」

エルブはそこからカウンターを繰り出した、カウンターは相手が物理攻撃を仕掛けた時、相手の攻撃力分×2倍を相手に跳ね返す防御技だ、ザングースは吹っ飛ばされた

ザングース「ぐわっ！？」

ザングースは大木にぶつかった、すると大木はザングースとぶつかったのと同時に折れた

ズルズキン「…逃げろおおおおおおおおおおお…！…！」

ズルズキン達はザングースを置いて逃げていった

エルブ「ふう～久しぶりのバトルで楽しかったわ～」

エルブは再び「キキ」と肩を鳴らす

チャオ「先輩…」

エルブ「大丈夫かチャオ？」

エルブはチャオに大丈夫なのか問う

チャオ「はい…でも先輩すごいですね…ポケハン地方で何かあつたんですか？」

チャオの問いにエルブは

エルブ「そいやな…そんじや話したる」

エルブはニカツと笑う

⋮

エルブはバトル部で過ごしたことなどをチャオに話した

チャオ「そつか…だから先輩はあれほど力を出せたんですね」

エルブ「ああ、ラッシュのおかげで俺は相撲を再びやることを決意したんや…その前に俺は旅に出る…ポケモンリーグで優勝して、ポケモン相撲を広げるんや」

エルブは力を込めて決意する

チャオ「そうですか…先輩は帰つても旅に出るんですね…」

チャオは悲しそうな表情で言つ

エルブ「それでも俺は行くで…たとえ寂しくなつても心は繋がつて
いるんや…チャオは俺にとつて大切な後輩やから」

チャオ「先輩…」

チャオの目から涙がこぼれる

エルブ「泣くんやな」… と泣あえずお前のひひまで送つておへわ、
また襲われそうにならぬのは」「めんや」

エルブはチャオを引き連れてチャオの家へと向かつた、そんな会話を聞いたザングースは

ザングース「久しぶりに本気になつたんだ俺……なんかスカッとしたしね
えが……」

ザングースは空を見上げ

サングース「俺の完敗だ…」

■ ■ ■ ■ ■

次の朝

エルブ父「きいつけや」

エルブ「ああーおとん、おかん、いつてくるでー。」

ヘルプ母「さーいっせんやで！」

エルブは自分の家を後にした。自分を育ってくれた両親とのしばしの別れを告げて、彼は歩き出した

そしてナースシティが見える丘、エルブは自分の生まれ故郷を見た

エルブ「しばしのお別れや…俺の故郷…」

エルブが行こうとしたその時

「待てよ…」

エルブの前に昨日のザングースがいた、しかもリュックを背負つて

エルブ「なんや？俺とコベンジかいな？」

ザングースはエルブへと近づく

ザングース「いや…お前と戦つてわかった…ここまで楽しくバトルできる奴がいたんだって」

エルブ「どうこう」とや？

ザングースは説明する

ザングース「俺は過去にバトルというのを捨てた…でもお前と戦つてわかった…バトルというのは色々ある…それに自分を認めたい…」

ザングースはそう言う、過去にバトルを捨て不良の道へと歩んでしまった…だがエルブとバトルして気づいた…ここまで熱くなれる相手がいたから

ザングース「だからお願いがある…俺を旅に連れて行ってくれ…！」

ザングースは土下座をした

ザングース「俺ももう一度自分を磨きたい！だからお願ひだ！！」

ザングースはエルブにお願いした

エルブ「顔上げな」

ザングースは顔を上げた、エルブの表情は笑顔だった

エルブ「そんならそうとはよ言えばよかつたんやないか～お前不良つてわりにはいい奴やないか！」

エルブはザングースの背中をバシバシと叩いた

ザングース「ぐえつ！？」

エルブ「すまんすまんつい力んでしもつた」

エルブは豪快に笑う

ザングース「そ…そ…うか…あ…ありがとな／／／／／

ザングースは照れる

エルブ「そんじやあ出発しよつか…えつと」

ザングース「俺はザングースのソウト、剣ソウト」

ザングース…ソウトは自分の名前を言つ

エルブ「エルブ…猪エルブや」

エルブも自分の名前を言つ

ソウト「よひしくなエルブ」

エルブ「いやいやいや」

エルブとソウトは握手する。するとそこから

「せんぱ~い！」

なんとチャオが来た

エルブ「チャオ!? お前なんでここに来たんや！」

エルブは驚く、チャオに後ろには荷物がつんであつた

チャオ「僕も一緒に行きます！」

なんとチャオも同行するらしい

エルブ「でも旅とは無理ぢやうんか？」

チャオ「大丈夫です。最近術などを覚えるようになりました…それに、これでも相撲だけじゃないんです僕は、バトルも特訓していますから」

チャオはそう言つ

エルブ「しゃ～ないな～でもそれなりの覚悟はできてるんやんやうつな
？」

エルブはチャオに覚悟があるかを聞く

チャオ「はい～」

エルブ「いい返事や…つとチャオもソウトに紹介や」

チャオはソウトに視線を向ける

チャオ「このザングースですか…」

チャオは不安がるが

エルブ「もう襲つてきいくんから大丈夫や、ほら」

エルブが後押ししてチャオは自分の名前を言つ

チャオ「僕はチャオ…チャオブーで本名はチャオ・マティつていい
ます」

ソウト「よろしくな」

エルブ「自己紹介をしたところでそろそろ行くで～」

3人はナースシティを発つた、これから先バトル部のもう一つの物
語が…今始まる…

じゅこじーー 濱花のHンブオーの復帰と旅立ち（後書き）

エルブ「珍しいな～作者がザングースとかを仲間にしようとは、ザングースはちょっとした感じでね…悪役が多いといつのもあるし、それには好きといつのもいるから

ソウト「やうなのか（汗）」

チャオ「でも不良なんだよね？」

元不良だよ（汗）

エルブ「まあ次回も見たつてや～」

ルルブ 食欲旺盛（前書き）

シラクマあつなどすーじーです。今回も携帯投稿です。

ルルブ「やねやなにか作者へ」

これ結構苦労すんだよね（汗）では氣を取りなおしてルルブに

ルルブ「もつもつこぐでーー！」

どすこい2 食欲旺盛

コガサカ地方を旅するエルブ、チャオ、ソウト、ナニスシティから大分離れた所まで来ていた

エルブ「結構歩いたな、ここいらで昼飯でも食うたろう」

チャオ「そうですね、僕もお腹ペコペコだし」

ソウト「だな、俺もちよつと腹へつたし」

どうたら全員お腹がすいたようだ、かなりの距離を歩いたのだから腹はへる

エルブ「そんじゃあ飯でも作つたる」

エルブは早速準備をした

・・・・・

俺は腹がへつた・・・だがおかしい、なぜかつて・・・

ソウト「量が多すぎだろ！！」

俺は思わずツツ「コミをした、俺たちのテーブルにはどこかの大食いチャレンジみたいなおよそ10人前ぐらいはあるうデ力盛り・・・いやド力盛りだった

メニューは「テカからあげ」に「テカ盛り炒飯、さらに「テカたこ焼き」に「テカお好み焼き、さらには「テカい鍋に色々な具材を入れたちゃんこ鍋までもだつた、おまけに飯は炊き込み」」飯が10合も炊いてあつた。・・

エルブ「そりかあー？俺は普通やと思つし？」

いや明らかにこんな量食えねえだらーーー？余つてもつたいねえだらーーー？

チャオ「先輩いただきましょ！」

エルブ「やうやな、ソウトも席つき」

しぶしぶ俺は席についた

エルブ「ほないただこうかー」

チャオ「いただきます！」俺も早速食つた・・・うまいな、まるでおふくろの味だ・・・つてーーー？

エルブ「うめえー」

チャオ「先輩、料理うまいですね！」

エルブは豪快に食つていた。こいつ食欲旺盛じゃねえか！？しかもチャオなんてゆつくりだが結構食つてるじゃねえか！？

エルブ「なんやソウト、どうしたんやーはよ食べー」

マジかよ（汗）こんな量を食えと？

ソウト「しゃあねえ~」

もつやけくねだ!!

ソウト「あぐつー..」

俺は豪快に食つた

エルブ「お前も豪快やなー俺もー..」

エルブも負けじと食つ..・・なんか逆に負けたくねえ!!俺も負けじと食つた

・・・・・

ソウト「げふつ・・・食つた~」ソウトは腹いつぱいの体で歩く、しかしエルブとチャオは

エルブ「なんや腹いつぱいであまり動けへんのか

お前のせいだるとソウトはジッ口///たいのだから腹いつぱいで重いためかジジ口///する気がない

エルブ「体力はつかなあかんからたくさん食つて動くんや

ソウト「つねせえ~つづぶ

よたよたとソウトは歩く

ソウト「にしてもエルブやチャオはたくさん食ったのにそんな体力あんだけ（泣）」

ソウトは涙目でエルブとチャオに聞く

エルブ「それなりに特訓したんや、とあるリザードンにきつくな

ポンと自分の腹を叩く

エルブ「相撲もたくさん食うだけやない・・・特訓もまた強くなるためのものやで」

エルブはそう話した

ソウト「そつか・・・つてか俺は相撲とりになる気ないからな！」

エルブ「ああ、わかつとる・・・なら旅しながらみつちりじー」いたるからな」

エルブは力強い口調で言つ

ソウト「勘弁してくれ（泣）」

チャオ「僕も特訓して大丈夫なんで」

チャオは白涙そうに言つ

ソウト「お前等は化け物か（泣）」

泣きながらエルブとチャオにツツ「!!」をした、その後ソウトはエル

ブのきつい特訓と、ボリュームたっぷりの料理に何日か苦労することになり、体重がかなり増えたのは言うまでもない

ヒカル 食欲旺盛（後書き）

ソウト「作者でめ～（泣）」

まだまだ

ソウト「俺なんどここんな扱い（泣）」

エルフ「次回も楽しみにしたってな～」

ソウト「おこー（泣）」

エルブ 森の中で（前書き）

エルブ「もう少しご話になつたな～」

チャオ「活躍まだまだですしね僕達」

ソウト「これラッシュьюとか言う奴の作品のスピノフだしな～俺達
ヨツラッシュьюとかいうザーデンの方が活躍してねえ？」

「ハハハ（汗）」この小説の主人公エルブなんだから

エルブ「まあやつくりとがんばればええな

セツセツ、あせりあせりあせりあせりあせりあせりあせりあせり

ソウト「なんでやねん！～」

ピカチュウ 森の中で

エルブ達3人はとある森に入った

エルブ「レジはなんや?」

チャオ「レジはヒヒイロの森だそ�です」

地図を広げ歩きながらチャオは現在地を教えてくれた

ソウト「たしかこにはヒヒダルマのすみかでもあつたな」

ヒヒダルマとは見た目がダルマをした顔のポケモンで時にダルマモードという特性でタイプがエスパーが加わる炎タイプのポケモンだ

エルブ「ほなこをはよ出た方がええな」

チャオとソウトは頷いて3人は森の中へと進んだ

⋮

ぐさぐさるるる...

ソウト「あ~腹減った~」

ソウトは自分の腹をさする、ぱつぱつしたお腹はふくらむとしていた。ほとんどがエルブの大量地獄料理によつてだが

エルブ「なんやだらしないな～」

エルブは言つた

ソウト「お前等とかはどつなんだよ（汗）」

ソウトはエルブとチャオがお腹すいていないことに気づく

エルブ「大丈夫や、このぐら～…まあまだ食いたい気分はあるで」

まだ食つのかよ…とソウトはツッコミを入れた

ソウト「お前等つてなんかバトルより食つ方がいいよつて思えるが
(汗)」

ソウトは呆れたように言つた

エルブ「なんや～俺はどつちでも好きやで～」

エルブは一や一やする

チャオ「僕も食つ方好きですけど／＼／＼／＼

チャオは恥ずかしそうに言つた

ソウト「お前等頭おかしいだろ…？」

ソウトはツッコミ

エルブ「ソウトもだんだん慣れるで～」

ソウト「慣れるかーー！」

ソウトのシツコニが森に響き渡る、すると

ガサガサと草むらが揺れる、そこから数匹のポケモンが飛び出した
眉間に炎を噴いていて逞しい両腕で赤い体色のポケモン、これがえ
んじょうポケモンのヒビダルマだ

ヒビダルマ「貴様等は何者だ！」

ヒビダルマ2「この森に入つた以上帰すわけにはいかん！」

ヒビダルマ3「覚悟しろ！」

ヒビダルマ達はエルブ達に襲い掛かる

エルブ「三散華や！」

エルブは三連続攻撃を打ち込んだ、ヒビダルマ1体は吹つ飛んだ

チャオ「風の爪よ！切り裂け！ニアネイル！」

チャオは術を詠唱してまるで爪のような風でヒビダルマ1体を切り
裂いた

ソウト「裂空斬！」

ソウトは持つていた剣で回転斬りしてヒビダルマ1体を吹つ飛ばす、

ちなみになぜソウトやチャオは武器を持つているのかといつとこの「ガサカ地方は治安も悪いのもあるため護身のために武器使用が可能となつていてる。だが治安の悪いものもあるためか武器を使つポケモンまで出るのもついて問題となつててる

エルブ「獅子連拳！」

獅子の闘氣を纏つた拳を連続で叩きつけた

エルブ「もうソウトが叫ぶからやるー！」

ソウト「お前等自体が俺にシッコリさせたんだが…。（怒）」

ソウトはキレシッコリをかみ、ヒビダルマも数を増やして襲つてくる
チャオ「喧嘩してゐる場合じゃないですよ！燃え上がり！バーンスト
ライク！」

ヒビダルマ達の足元から強力な爆発と頭上から火炎弾が襲つ

エルブ「きりないな～」

「お前達下がれ！」

誰かの声が森中に響く

エルブ「なんや？」

するとそこにヒヒダルマ達より一回り大きいヒヒダルマが現れた、大体エルブの身長と同じくらいの大きさだ、どうやらこのヒヒダルマはボスというか親玉だろ？

ボスヒヒダルマ「その力…なかなかやるな…」

ボスヒヒダルマはエルブ達を見る

エルブ「お前がここに親玉ひゅーわけやな？」

エルブが問いただすと

ボスヒヒダルマ「ひうだ、俺の名はゴルマ、ここにひうらの親玉だ」

エルブ「俺はエルブや」

互いに自己紹介する

ゴルマ「この森に来た理由はここを出たいといふことか？」

ゴルマがエルブに質問する

エルブ「そうや、俺達は最初のジムがあるガンロシティに行きたいんや

エルブは目指してゐる場所を言つ、言い忘れていたがエルブ達が最初に行く場所はガンロシティといふ街だ

ゴルマ「そうか…なら俺と勝負しぃー。」

「ゴルマはエルブに勝負を挑む

エルブ「やうやな~ほな何で勝負するんや?」

エルブは何で勝負するか聞く

「ゴルマ」なら相撲で勝負だ

ゴルマは相撲勝負を挑んできた

エルブ「いいで~肩慣らしこじょうじょんええ」

エルブは両肩をまわす

ソウト「お~お~、もし負けたらどうなんだよ?」

ソウトが質問する

ゴルマ「俺が勝つたら許しが出るまでこの森に住んでもらう

チャオ「先輩が勝つたらこの森に出られることか~」

この勝負…エルブには負けられない戦いだ

エルブ「ええで

ソウト「お~!~もし負けたら俺達の旅も終わるってことだぞ!~」

ソウトの言葉にエルブは

エルブ「俺は負けへん…絶対な…」

エルブは静かに言つ

…

ヒヒイロの森の奥、そこには立派な土俵があつた

エルブはマワシを吐いて塩を土俵に撒く、ゴルマも次に出てきて塩を撒いた

チャオとソウトはエルブを見守る

ソウト「あいつ大丈夫なのか？体力消費とかもあるから不利じゃねえ？」

ソウトはエルブを見る、たしかにソウトの言つとおりエルブはさつきの戦いの消費などもあるためエルブが勝てる保障はないと判断する。しかしチャオは

チャオ「僕は先輩を信じます…先輩はバトル部…」
「…部活で活躍して帰ってきたのだから…」

チャオはそんなエルブを信じている。後輩との絆…エルブは支えられているのだ…仲間に

ソウト「そつだよな…俺に立ち向かつたときはかなりの強さだった…なら俺も信じるしかねえなあいつを」

二人は信じるような目でエルブを見る

ヒヒタルマー「それでは両者構え!」

互いに落とし拳を地面につける

ヒヒタルマー「ねらって…はっかよ~い…のこった…!」

今エルフとゴルマの対決が始まった!

じゅじゅ 森の中で（後書き）

エルブ「次回は本格的相撲やな」

まあ調べるの大変だけどね（汗）

チャオ「先輩…」

ソウト「負けるんじやねえぞ…！」

次回は対決です。

ルート4 燃えぬつぱつー（前書き）

エルフ「俺は負けへん！」

『氣合はいるね』

エルフ「当たり前やー『氣合入れとかんと勝てへんし』

『氣合入つたそんなどす』⁴

ソウ「きやがれ！」

4 燃えるつっぱり!

勢いよくヘルブとゴルマがぶつかり合ひ、互いにつかみ合い、ぶつけ合つ

ヒビダルマ2「いいぞ～！！」

ヒビダルマ3「ボス」！！

声援が土俵に響く

エルフーぐおおい！」

「アーティスト」

互いに押し合へし合ひが續く

チヤオー先輩かんはれ！！

「やめんなよ！」

チャオとソウトが大声で応援する

重量級のあんこ力士なエルブは負け時とつぱりをする。一方のゴルマも同じ大型で重量級でもつぱりでも倒れない

エルブ「（あかんな…）のまま決めへんと俺が負ける…」

エルブの体から大量の汗が吹き出る

「ゴルマ「（）のままなんとか体力を減らせば俺の勝ちだ」」

「ゴルマはエルブの体力を消費させて勝とうとしている。はたしてエルブに勝てるチャンスはあるのか

エルブ「（なんとかせえへんと…）」

エルブは考える…

エルブ「（なにせんしかあらへん…）」

エルブは集中した、すると両手が炎を纏う

「ゴルマ「（何をするつもりだ？）」

「ゴルマはエルブが何をするつもりなのかを見る

エルブ「行くで…」

エルブは勢いよくゴルマに向かう

エルブ「（いてもうたれや…）」

エルブのつぱりがゴルマに襲いつ、素早くつぱりがゴルマは手も足も出ない

「ゴルマ「（…）」

エルブ「もうつたで！！」

エルブのつっぱりがゴルマを吹き飛ばした

「アーリー・ヒーリング」

ゴルマは土俵の外へと落ちた

ヒヒダルマ1「...勝者...エルブ!」

チヤオー先輩！」

「カーテンおろしやー！」

チャオとソウルが土俵に上がる

エルフーあきつかたわくかなり熱かたで

エルフは一丸と笑う

二三
俺の負けだな

二川マガエ川ノ達の元へ

ゴルマ「とりあえず着替えたらついてこい」

エルブ達は領いてエルブは着替えをしにいつた

■ ■ ■ ■ ■

数分後、着替えが終わったエルブ達は「ゴルマの案内で森へと進む、
すると一筋の光が見える

エルブ「やつと出れたわ~」

エルブ達は森の出口に出たのだ

「ゴルマ」「ここから行けばガンロシティまでもうすぐだ」

エルブ「そうか~ありがとう」

エルブはゴルマにお礼を言つ

「ゴルマ」「楽しかった…久しぶりに戦つてな…じゃあな

ゴルマは去つた

エルブ「ありがとな~!またここ来た時お礼をさせてもらひつで~」

エルブが元気よく手を振つた、それに応えるようにゴルマは振り向
かないまま手を振つた

チャオ「さてここからガンロシティに行けば大丈夫ですね」

エルブ「そうと決まれば出発やで!」

ソウト「おっしゃあ!~!」

3人はガンロシティに向けて歩きだした…最初のジムであるガンロ
シティまでもうすぐだ!

ルーム4 燃えぬ火ばつー（後書き）

チャオ「もうすぐだね」

エルフ「よっしゃあー最初のジム制覇いくでー！」

次回はジム戦？

ソウト「なんで？だよ（汗）」

まだわからなーいこと

ソウト「おこー？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5573y/>

どすこいエンブオーの旅～バトル部外伝～

2011年11月20日16時56分発行